

NPO 法人コスモ夢舞台

## フクロウだより

Vol.12  
第5号



2021年 9月 19日

### <事務局から>

気がつけば9月も半ばを過ぎ、季節は実りの秋を迎えています。

コロナウイルスの感染拡大は減少傾向にあるようですが、緊急事態宣言は9月30日まで延長されています。加えて気象変動による災害など、落ち着かない不安定な日々が続いておりますが、皆さまにはお変わりなくお過ごしでしょうか？

さて豊実では、全焼した石夢工房の後片づけも順調に進んで、第18回「里山アート展」を予定通り開催すべく、佐藤さんの全力投球が続いています。今年の開催については佐藤さんが、すでにHP上でその熱い決意を述べています（同封の「今年の里山アート展」をお読みください）。

今年は、焼失した「石夢工房」の跡地を第二会場として、アートでその復興を表現するという趣向も凝らしています。過去に例を見ない「アートと生活」をテーマとした表現展示になることは間違いないようです。

事情の許される皆さまはぜひ、作品参加ワークショップや作品見学にお越しくださいますようお願いいたします。

10月2日（土）の開催オープニングセレモニーでは、ご来賓の皆さまからもトークショー形式で楽しいお話をいただけると内諾をえています。県議会議員の澤野修様、阿賀町町長の神田千秋様には、よろしく願い申し上げます。

久しぶりに豊実の秋空のもと、皆さまと再会できることを楽しみにしています。

（森絃一）

---

### <直近のイベントスケジュール>

- 第18回「里山アート展」（会期10/2～23日）  
第一会場「いのちの田んぼ」、第二会場「石夢工房」跡地
- オープニングセレモニー  
10月2日（土）10:00～  
第二会場「石夢工房」跡地

2021. 9. 1

今年の里山アート展

佐藤賢太郎

今年も里山アート展（会期10/2～23日）が近くなりました。会場は例年の田んぼに第二会場が加わります。理由は石夢工房が広がることと石夢工房全焼を復興展示するためです。それをオープニング当日に「全焼をアートによる復興」と題して披露します。

多くの参加者と佐藤賢太郎の独創によって展示します。皆さんはきっと驚くと思います。具体的には多くの会員やウーファー、ブッキングの人びとの絵が並び、毎日私が見ます。その絵は復興記念として永遠に残ります。勿論私は石夢工房に彫刻も設置します。焼け跡の見える作品です。またこの工房は展示場にして、多くの太陽光パネルがある工房です。木彫もあります。ある方の石碑も私が制作します。この世に二つとない作品を制作します。それをオープニングに披露します。すでに13点できています。写真をそろえて記録に残します。目標は20点以上です。皆さんも参加しませんか。

この工房は驚きと共に、二度と出火しない為のモニュメントです。

2021.8.8

石夢工房、全焼

佐藤賢太郎

急啓 去る8月7日、石夢工房より出火、全焼する事態に至りました。  
皆様にはご迷惑とご心配をおかけいたしました。誠に申し訳ありませんでした。

石夢工房は桃源の湯と併設した建物のみで、周囲は山あいの平地になっており、他に建物はなく延焼は逸れることができました。

仲間と作った石夢工房は全焼し、桃源の湯は当分使用できません。ほとんどの工具類も使い物になりませんが、私は形を変えて立ち上がります。謹んで、変わらぬご支援をよろしくお願い申し上げます。

敬具

2021. 8. 11  
「石夢工房」の思いで  
森紘一

「石夢工房」は石彫作家 佐藤賢太郎の創作活動の原点であった。

平成18年(2006)、埼玉県から郷里の阿賀町豊実にUターンした佐藤さんは、その後の作品の数々をこの工房で生み出している。



そもそも「石夢工房」は、コスモ夢舞台の仲間も一緒に協力した手づくり工房で、フォークリフトもそのまま空きスペースに駐車でき、無農薬米や手づくり味噌も収納されていた鉄骨組の大きな建物だった。

後付けの内階段を上がると、屋根裏は10人程度が休める鰻の寝床となっていて、建設作業の盛んだった平成20年(2008)前後は東京ブロックからの参加者の定宿となっていた。慣れるまで、何度柱に頭をぶつけたか分からない。カメムシとの格闘も、今は懐かしい思い出である。

平成21年(2009)に合唱の国エストニアのエレルヘイン少女合唱団46名が来訪された時は、この「石夢工房」にも何人かが投宿している。

さらに、隣接する「桃源の湯」は雪をかぶった飯豊連峰を望む絶景が自慢だったが、湯上りにあおぐ満天の星もまた格別の味わいだった。

この野生味溢れる別世界は、ここで汗を流し、ここに憩い、まどろんだ者すべての記憶の中にしっかりと生きている。

HPに載った「石夢工房、全焼」の“私は形を変えて立ち上がります”という佐藤さんの宣言は何とも力強い。

ストーンサークルづくりに励むかたわら目指す縄文村構想は、新たに再生という大きなテーマに取り組む佐藤さんのゆるぎない姿勢につながっている。